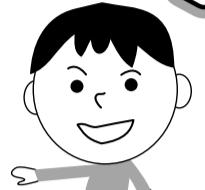




# 子どもを売らないで!



日本ユニセフ協会大使  
アグネス・チャンさん  
カンボジアを訪問

人身売買の  
防止にとりくむ  
カンボジアの  
子ども・若者も  
来日



背中に荷物をかくして国境を越える子どもたち

Report 1

## 傘さしをする ワニーちゃん

ボイペット村で、ワニーちゃんという  
おんなの子に出会いました。ワニーちゃんは  
13歳で、身長は140cmほど。日本の13

歳の子どもとくらべて小さいと思います。ボイペットには大きなカジノが建設されています。タイではカジノは禁止されているので、タイ人や外国人がこのカジノへやってきます。そのお客さんを自分で仕事としています。ワニーちゃんの仕事は「傘さし」です。カジノから出てくる人に雨や日差しをよける傘をさしかけて、運がよければ5バーツほどもらいます。1日におよそ90円をかせぐそうです。

ワニーちゃんの家によせてもらうことにしました。バイクが引っぱるリヤカーに乗って移動します。なんにもない所にポソンポソンとあるうちのひとつ、今にもく

ずれそうな小さな家でした。そこにワニーちゃん、両親、兄、弟、妹と暮らしています。電灯もついていません。お母さんは、妹の世話をかかりきりで、ワニーちゃんが2人の弟を食べさせます。朝6時に起きて12時間働いて、食事はご飯にならずの煮物だけ。おねだりお金は家族にわたります。お父さんは帰ってきていないし、お兄ちゃんはタイに行つたきりです。それでも、家族があつて帰る家がある



ワニーちゃんの家へ向かう



「ゲットー」という団体を訪ね、そこでウェットちゃんに出会いました。彼女は人身売買の犠牲になった子どもでした。

ある日、ウェットちゃんは、村の子どもたちといっしょに、村ではめずらしいビデオを見ていたそうです。普通の家にテレビなどないので、子どもたちが集まっています。そこでウェットちゃんは、男の人から飲み物をわたされ、それを飲んだら気を失ってしまいました。目がさめたとき、ウェットちゃんはタイになりました。バンコクでほかの子どもたちと、花売りやキャンディ売りをさせられました。売り上げが300バーツ（およそ900円）になるまでキャンディを売らなくてはならず、売れないからご飯はもらえない。600バーツ以上売れるとなればおこづかいがもらえるそうです。私はウェットちゃんに聞きました。「今までに見た一番悪い夢は何？」彼女は「電線のむちで打たれること」と答えました。それは夢ではなく現実でした。300バーツ売れないし、むちで全身を打たれたそうです。「楽しい夢は？」と聞きました。彼女は、「一度も見たことがない」と答えました。彼女は今16歳くらい。両親はなくなり、お母さんはエイズだったそうです。



ウェットちゃん

私たちちは半日の学校を開いている施設にも行きました。なぜ半日かというと、働いている子どもたちが丸一日学校に行くことはできないからです。しかも給食つきという条件で親を説得し、子どもを通わせています。ここには人身売買の経験を持つ子どもがたくさんいました。男の子は物売りとしてだけでなく、農場の労働力になります。年ごろの女の子は売春をさせられたりします。もどってくるときは、タイで不法滞在者として警察につかまって強制的に送りかえされてくるのです。



学校に給食があると通える子どもたちがふえる

## Report from CAMBODIA アグネス・チャンさんからの報告

最初に向かったのは、カンボジアとタイの国境にあるポイペット村でした。カンボジアを訪れるのはこれまで3回目です。最初は1988年、ちょうどベトナム軍がカンボジアから撤退した後の年でした。1988年、人びとは無表情で絶望の中にいるようでした。多くの人が虐殺されたポル・ポト政権時代の悪夢から立ち直れていないようでした。

今回、訪れたポイペット村では、物が増え、人びとの表情は明るくなっていました。でも、すっかり平和がもどったというわけではありません。たくさん的人が貧困で苦しんでいます。

カンボジアとタイとの間にある浅い川。その川を渡るとポイペット村に入ります。子どもたちが、「お金をください」とよってきます。多くの人がタイへ向かって国境をこえようとしていました。

彼らは、朝、国境を渡り、夕方、帰ってきます。国境を渡るときは、緑色の許可証が必要です。これは10バーツ（およそ30円）で買うことができます。子どもにその紙はいりません。だから子どもがさらわれても、よくわかりません。子どもの手をとって、「自分の子です」と言えば国境を渡れてしまうのです。

カンボジアで一番多いのは子どもです。その子どもが売られます。安い労働力としてねらわれます。言いなりになりやすいから、純粹だから、一生けんめい働くから、親孝行だから…、子どもたちはそんな理由でひどい目にあっていいます。



## 母親に売られた サリーちゃん Report 3

私たちちはカンボジア第2の都市バッタンバンに向かい、人身売買の犠牲になった子どもたちが保護されている施設「ホームランド」を

訪ねました。そこで、サリーちゃんといふ女の子と、アドリーくんといふ男の子に出会いました。サリーちゃんはお母さんに売られ、タイに行きました。花やキャンディ売りをさせられたそうです。アドリーくんは両親をなくし、あすけられたおじさんの子どもたちといっしょにタイに働きに行き、警察につかまり、送りかえされました。

サリーちゃんは途上で具合が悪くなり、車の中で何度も吐きました。とうとう、施設の先生が「今日はあきらめよう」と言いました。

私はひとりでサリーちゃんのお母さんを訪ねました。ほんの少しの果物を売り、たおそれ

な家に2人の子どもと住んでいました。2人のお兄さんは親せきにあすけたと言います。おどろ

いたことに、サリーちゃんは2回売られました。1度家にもどってきたのに、また知り合いの女性の人からお金を受け取ってあすけてしまったというのです。サリーちゃんの具合が悪くなつた理由がわかりました。お母さんに会いたいという気持ちが大きいのに、帰ったらまた売られてしまうかもしれない心配だったのでしょう。

子どもを売ってしまうお母さん、ものすごくつらいと思います。私はサリーがどんな目にあつたか、今きっとどんな気持ちか、話しました。「子どもが売られてどんな目にあうか分からなかつた。でも分かったから、もう2度と売ることはない」とお母さんは言いました。サリーちゃんを売ったのは下の子が病気になつたからだそうです。では、「また下の子が病気になつたらどうする？」と聞いてみました。

お母さんは泣ながら「サリーが自分で行くと言ったんだよ」と言いました。私は、それでも、「絶対に売ってはいけないわ」と話しました。

サリーちゃんの  
お母さんと話す

でも私の会った子は、帰ってこられた子たちでした。子どもが行ったきり帰ってこない、どこへ行ってしまったか分からぬ、という話も多く聞きました。今日もたくさんの子どもたちが家に帰れず、夢も希望も、場合によっては命さえもうはわれています。お金のある人が何でも買える、子どもの命も、夢も希望も好きなようにできるなんて、ゆるせないことです。私たちもがんばって、必死に生きている子どもたちを応援していきたいと思います。

写真：©日本ユニセフ協会/Nozawa

# ユニセフ子どもセミナー2002

アグネスさんの報告に続いて開かれた「ユニセフ子どもセミナー2002」では、はじめに、以前からこの問題について積極的に活動している国會議員の谷垣禎一さんがスペシャルゲストとして、8月にミャンマーとカンボジアを視察されたお話をされました。谷垣さんは、ごみ山で暮らしたり、国境をこえて人身売買されたりする子どもたちのようすを報告し、現地では警察官などの給料が少なく、わいの受け取りが起こりやすいなど、子ども搾取や虐待の取りしまりがすすまない理由を説明してくださいました。



つづ  
続いてカンボジアの2人がワークシ

ップをはじめました。小柄な体から  
は想像のつかない大きなエネルギーに、  
参加者もどんどん引き込まれていったようです。



ソクンティアさん(左): カンボジアのNGO「子どもの権利財団」の創立メンバー。21歳。子どもの人身売買を防ぐために子どもによる監視システムを計画中。昨年12月に横浜で開かれた「第2回子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議」や今年5月の「国連子ども特別総会」に参加了。

ソーバンナレッサン(右): 子どもの権利を広める青少年団体の活動に参加する活動家。17歳。貧しい家庭の出身で、13歳で学校をやめ、お母さんと市場で野菜を売る生活。毎朝4時に起きて野菜を仕入れ、お昼まで野菜を売る。一日の売上はカンボジアのお金で3000~4000リエル(およそ100~150円)。午後、縫製学校に通っている。

## VIDEO ビデオ

最初に "The Victim (被害者)" というビデオを見ました。これは、実際にあった話をもとにユニセフがNGOと協力して作った現地で使われている啓発用のビデオです。

2人の警察官が行方不明になった少女スペイブラーの捜索をはじめ、捜索をする中で、スペイブラーはあるカラオケバー(買春宿)で働かされていることがわかった。彼女はお手伝いをして働けると言われたのに、実際は、無理やり薬を飲まれ、カラオケバーに売られたのだった。翌日、救出に出た警察官が彼女を見つけたときには、彼女は自殺していた。

## DISCUSSION 話し合い

年齢別に3つのグループに分かれて、話し合いが行われました。各グループからは、「人身売買」は、「人を人として考えないこと」、「人をモノとして売ること」、「人の命をもて遊ぶこと」、「子どもの性的搾取」については、「子どもの体をあとの思い通りにすること」などの意見が出ました。そして、「私たちにできること」については、次のような意見が出ました。

- ・おとなだけなく子どもにも買春問題に 대해情報を出す
- ・教育(性教育)を充実させる
- ・貧しさから抜け出せるように人ひとりもっと働ける場をつくる支援をする
- ・相手の立場を考えられるように、思いやりを持てるおとなになるように教育する
- ・学校の友達にこの問題を伝える
- ・政府に立法を働きかけたり、おとなに考えを伝えたりする

## VOICES アンケートから

今日見たことや、聞いたことを忘れずに活動をひろげていきたい。自分の友達やほかの人にも今日のことを伝えたい。わたしたちおなじよし私達と同じ年の子どもたちが性的搾取を受けていることにショックを受けました。日本という豊かな国が、このことにもっと関心を持つべきだと思いました。おとなの理解と教育がとても重要だと感じました。子どものパワーはすごい!みんなで子どもの商業的搾取をなくすために動いたからって思う。

人身売買の問題はすごく大きくてむずかしくて、目をそむけたくなる時があります。そんな時、力になることは、その問題にとりくむ仲間がいるということです。カンボジアの2人に力をもらいました。一緒にがんばろう!



## ■ビデオを見て...

Q 日本でも似たようなことがありますか?

A 女性が帰り道にレイプされたり、女子高生が自らの性をお金などとひきかえに売ったりすることはあります

Q スペイブラーはなぜ自殺してしまったのでしょうか?

A 昔の自分にもどれないと感じたから? はずかしくて家族に自分の姿を見せたくないと思ったのかも。

## 参加した子どもネットワーカーから

世界の子どもたちがモノとして思われ、またモノとして使われていることが、よくわかりました。なぜ子どもがおとの道具のように使われないといけないのか、とても不思議に思いました。しかし、話を聞いていくと、そのうちのひとつの理由がお金がないから、というものでした。ぼくは、これを聞くときにとてもがっくりしました。お金がないだけで子どもを売るのはひどいと思いました。

ぼく達にできることは、同じあやまちを二度とおこさないようにすることだと、この報告会で思いました。

8月26日午前中はアグネスさんの帰国報告会に参加して、午後は子どもセミナーに参加しました。子どもセミナーはソクンティアさんとソーバンナレッサンがとてもわかりやすく説明してくれたので、カンボジアのことがよく分かりました。

カンボジアが貧しくて、子どもが自分も働く必要と思って、がんばっているのに、子どもが売っているものがなかなか売れなかつたりすると、すぐにムチで叩いたりするのは、本当にいけないと思います。花やあめを売るのではなく、買春される子がたくさんいることもわかりました。本当にかわいそうに思いました。仕事がいやで逃げ出そうにも、さらにひどい暴力を受けて逃げ出せない。本当に子どもを物扱いしていると思いました。貧しいから少しでも働きたいという子どもの気持ちを、おとの都合のよいことだけに使うのは、許されないことだと思います。もし、家に帰れたとしても、また売られるかもしれない、まわりの人から差別を受けるかもしれない。こうして子ども達は生きていく道をなくしてしまう。こんな環境で生きている子ども達を早く救ってあげたい。

渡辺 潤 13歳

こばりままりこ 小張真理子さんは、カンボジアのお2人に、インタビューしました

1は18歳未満の子どもです。また、多くの子どもが労働力として海外に売られています。ソクンティアさんの話によるとターゲットは13~14歳位の女の子なのだと...。「海外の工場で働かないか?」などと密売人にだまされて、性産業で働かれるそうです。

また、HIV/AIDSが大きな問題となっています。カンボジアの性産業で働いている人の42.6%はHIV(エイズを引き起こすウイルス)に感染しているそうです。カンボジアではまだ、法律や社会福祉制度が不十分で、問題の解決はとてもむずかしいことだそうです。

お話を聞いての感想

じんしんぱいはい 人身売買がこんなに世界でひんぱんに起こっているなんて想像もしていませんでした。新聞で、「臓器買取のために子どもが売られた」というニュースを見たことがあります、本当にまれな問題だと思っていました。それだけでなく性的搾取を目的とした人身売買が起こっているということを知って大きな衝撃を受けました。

小さな子どもならエイズにかかるいないからといって、ターゲットにされるのは信じられないことです。もし、自分が被害を受けたら本当にいやです。私のいる環境から人身売買が現実に起こっていることを受け止めることはむずかしいことです。本当に信じられないし信じたくないですが、こういう問題が早く解決されることを祈ることしかできません。また、解決のために私にもできることを考えたいです。

小張 真理子 17歳



# ち　　ず　　み　　せ　　かい 地図で見る世界の 子どもたちのようす

## あん　　ぜん　　み　　ず 安全な水を 子どもたちに！

こ　　ま　　ま　　せ　　かい  
子どもが守られる世界は  
環境も守られる世界

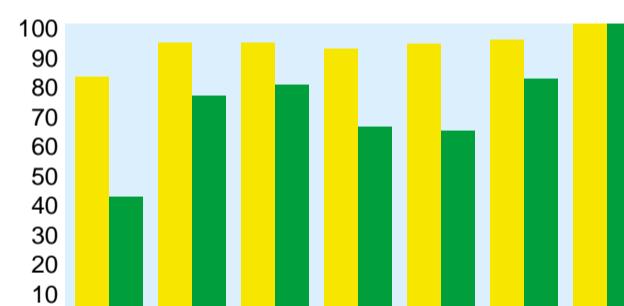
2002年8月26日から9月4日まで、南アフリカ共和国のヨハネスブルグで、国連の「持続可能な開発に関する世界サミット」(ヨハネスブルグサミット)が開かれました。10年前、ブラジルのリオデジャネイロで開かれた「地球サミット」で、各国は、環境を守り、エネルギーや資源を保全しながら続けられる開発(持続可能な開発)のために行動することを約束しました。しかし、その後、世界は、環境を守り資源を保全できるようになったのでしょうか?

今、地球の人口は60億人をこえました。過去50年の間に2.4倍に増え、今も増えづけています。世界の5人にひとりは、1日1米ドル(およそ120円)にも満たない収入しかなく、とても貧しい生活を強いられています。安全な飲み水を得られない人びとは、およそ11億人に達しています。



とし  
都市と  
農村

安全な水を手に  
入れられる割合  
(2000年)

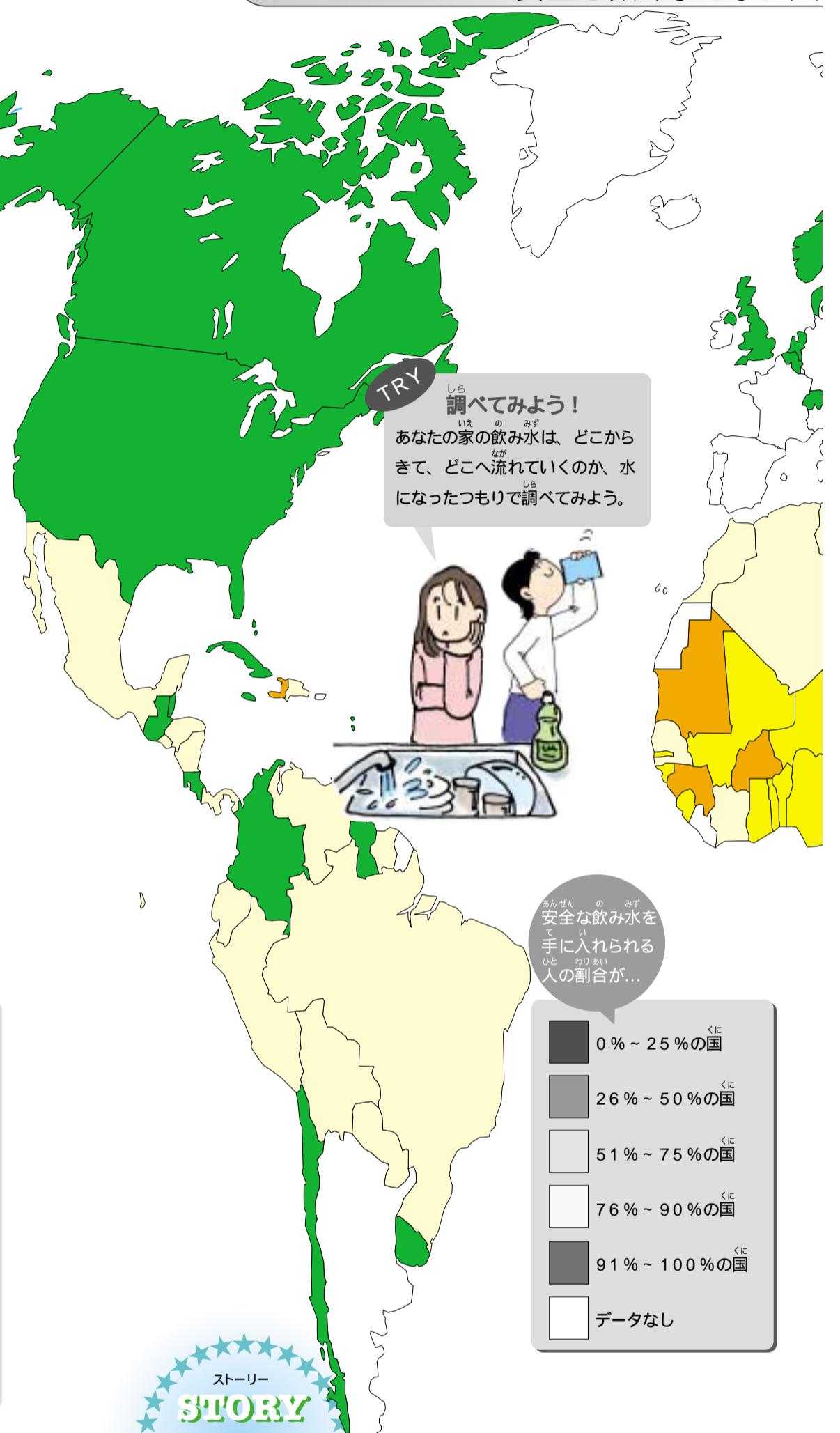


ユニセフのキャロル・ベラミー事務局長は  
サミットで次のように話しました。

「本当に持続可能な開発を達成するためには、子どもにふさわしい世界をつくるなければなりません。安全な水やきれいなトイレを整えるといった簡単なことが、子どもの命を守るだけでなく、多くの子どもたちを学校に通わせることにもつながります。そして、しっかりと教育を受けた子どもたちは一世代でも大きな変化をもたらすことができるのです。」

サミットは、全世界の国ぐにが協力して、環境を守り、貧困をなくし、持続可能な開発をすすめることを約束した実行計画書と宣言文を探して閉会しました。これから、それが実行にうつされるように、みんなではたらきかけていくことが求められています。

あんぜん　の　み　　ず　　て　　い  
安全な飲み水を手に入

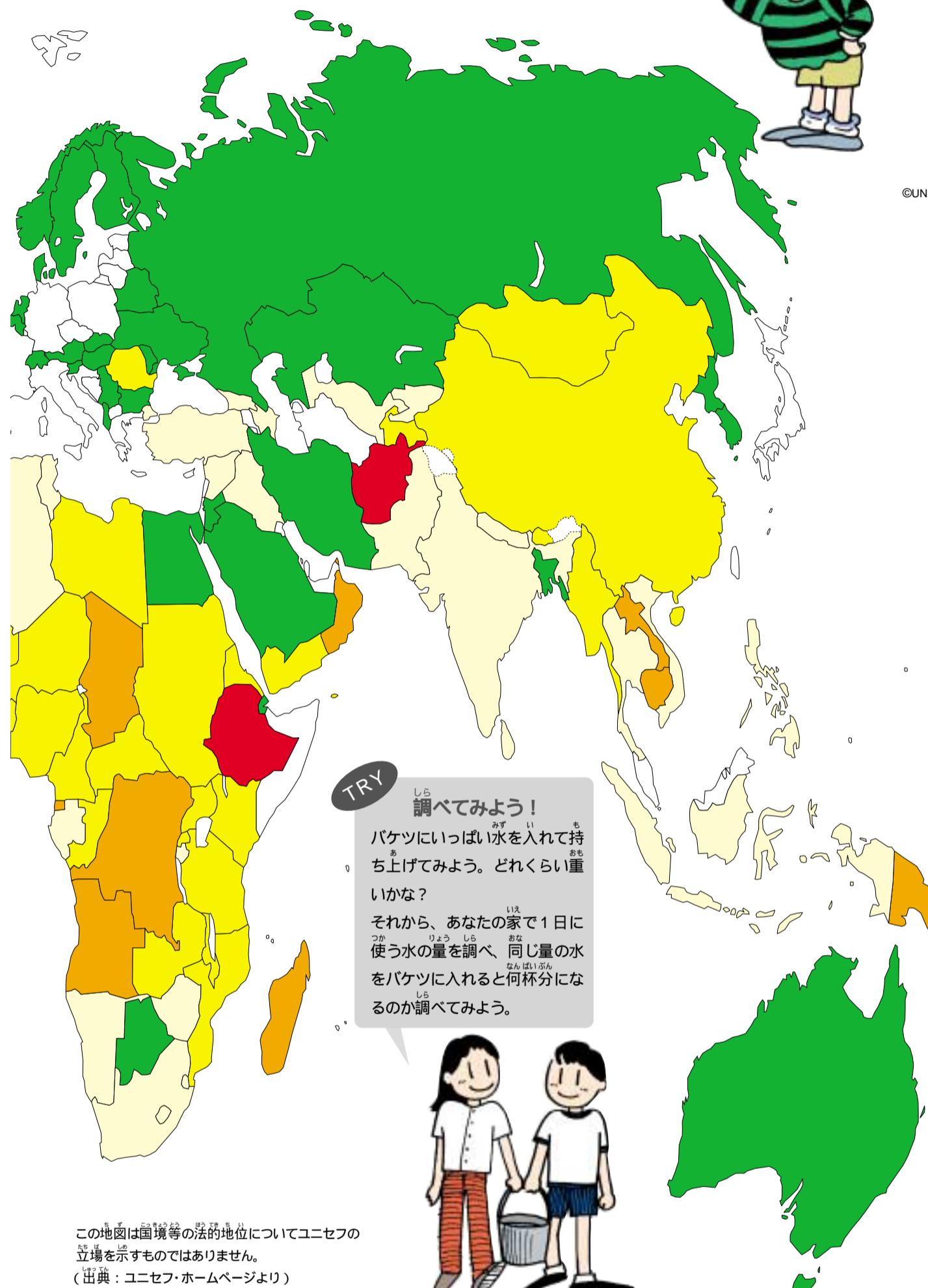


STORY  
み　　ず　　き　　い  
水が来たら、  
学校に行けた!



ジンバブエのビンガ地区は貧しい地域です。ここで暮らす11歳のピカイは、お母さんが病気にたがって学校をやめるほかありませんでしんも病気がちで、シュピカイはの妹をどうにか食べさせて、せねばならなかったのです。  
家にはトイレがなく、お母さんをくり返していました。いつも注意深く穴をほって、それましたが、家族はみんな病気がありました。

## い い 入れられる人の割合 ひと わりあい



### ヨハネスブルグサミットでの子どもたちのスピーチ

ヨハネスブルグサミットでは、4人の子ども代表がスピーチをおこない、子どもたちの声を伝えました。みなさんなら、どんなことをうつたえたいですか?

私たち、10年前のリオデジャネイロ会議のときはまだ赤ちゃんでした。でも、ここでうつたえたいことはそのときに話されたことばかりです。世界の子どもたちはがっかりしています。なぜなら、多くのおとながお金や富にしか興味がなく、私たちの未来に深刻な影響を与える問題のことを考えてくれないからです。あなたの子どもたちのことを考えてください。…どんな世界を彼らに望みますか?

私たちの声を聞いてください。そして、私たちすべてが幸せに生きられるような選択をしてください。

### 世界中の政府は

開発途上国の人々が安全な水を手に入れられるようにしてください。  
(二酸化炭素の排出を制限する)京都議定書に署名してください。私たちは、真夏に雪がふるんじゃないかななんて心配するのもうごめんです。一家族あたりの車の数を制限してください。すべての子どもたちが、無料で保健サービスを受けられるようにしてください。  
植林することなく木を切るのはやめてください。  
貧しい人や子どもたちを支援するためにもっとお金を使ってください。

### 世界中のひとびとは

歩いたり、自転車を使ったり、車の相乗りをしたり、(車を使わない)交通手段をもっと使いましょう。ごみを減らし、もう一度使い、リサイクルを進めましょう。多くの政府が、環境や人びとにあまり配慮しない人たちによって簡単に動かされてしまうことを心配しています。ほかの惑星を代わりに買うなんてことはできないのです。罪を犯した人は刑務所に送られます。なぜ、環境や子どもを傷つける国ぐにを罰することがそんなにむずかしいのでしょうか?

鏡をのぞいて、こう言えますか?「子どもには未来がある、安全な水を手に入れられる、貧困や汚染された環境で生きなくてもよい。なぜなら私たちが行動するのだから」と。そんなにたくさんのことをお願いしているとは思いません。いいスピーチだったね、とほめられるより、みなさんが行動してくれることを願います。

(一部抜粋翻訳)

まず ひどい人が多い  
1歳の女の子シュー  
にたおれたとき、  
んでした。お父さ  
イは、1歳と3歳  
、世話をしなけ  
母さんはひどい  
シュピカイは、い  
それをうめてい  
きがうつる危険

それに、井戸もないので、シュピカイは水を入れると20kgもの重さになるバケツを持って、3kmもはなれた水場まで1日に何度も往復しなければなりませんでした。水場といつても、ただ穴をほって水がわき出しているだけのところで、おおいもされていません。重いバケツを頭にのせて、家に帰るのに40分はかかります。

この問題をどうしたらいいのかしら?と聞かれたときシュピカイはすぐさま答えました。「水よ! 水。水さえ近くにあれば、問題の半分は解決するの。それに、もしトイレがあれ

ば、お母さんは楽になると思うわ。両親や妹の世話をするのだって、とても簡単になります」

ユニセフが支援するプログラムがこの地区ではじまり、とうとう、シュピカイの家にも井戸とトイレができました。お父さんはれんがをつみ、トイレ用の穴をほりました。建設してくれた人たちには、にわとりややぎでお礼を払いました。

このできごとの後、シュピカイの毎日の仕事はずっと楽になり、数ヶ月のうちに、もう一度学校にもどることができました。

## INTERVIEW

Profile  
なかいひろまさ  
中井裕真さん

1992年に国連ボランティアとしてボスニアの人道援助活動に、1994年に南アフリカの国連選挙・平和運動監視活動に参加。1995年、ユニセフ・ミャンマー事務所に赴任。ユニセフ・イラク事務所などでの勤務の後、2000年9月からユニセフ・ソマリア・ボサソ事務所長。

## なぜ戦争が続いているの？

**Q** ソマリアの戦争など、歴史的なことについて教えてください

**A** ソマリアで起こっている内戦は、民族の紛争ではありません。ソマリアは单一民族の国です。

ソマリアは1887年にイギリス領とイタリア領に分かれてしまいまし

た。1960年6月にイギリス領だったソマリランドが独立し、その2日後にイタリア領だったところが独立しました。その後、2つの国がひとつの国として独立し、政府ができました。しかし、ソマリア全体をまとめるのは苦労しました。なぜなら、ソマリアには遊牧民族が多く、その上、先祖代々続く氏族という家族の大さなかたまりがいくつもあって、氏族同士の争いが昔からあったからです。

そこに、アメリカと旧ソビエト連邦の間の東西冷戦が大きな影響を与えました。ソマリアが独立した後、政権についた大統領はソビエトの支援を受けて、共産主義の國づくりをめざしました。その後、ソマリアのとなりの国エチオピアで、軍が政権をうなぎ上りで奪取され、ソマリアも政権がきました。それを見たソビエトはエチオピアへの支援に力を入れるようになります。そうすると、今度は共産主義をきらうアメリカが政治や軍事の面からソマリアに力を入れるようになりました。こうして、ソマリア国内には、アメリカとソビエトからきた武器や弾薬がたまっていたのです。

ソマリアの政府は、政府に反対する勢力をあさえきれず、国全体を治めきれなくなってしまいました。政府がなくなってしまった後は、さまざまな勢力が武器を略奪して争いをはじめ、それ以来、いまだに争いが続いています。

**Q** 百年も前の植民地主義やその後のアメリカやソビエトが今のソマリアをつくっているということですか？

**A** アフリカの地図を見ると、環境も不自然にまっすぐですよ。植民地の歴史のためです。今も、アフリカの多くの国は、旧宗主国（昔支配していた国）の欧米の国ぐにと経済などで深いつながりがあり、そのつながりなしでは生きられない構造になっていますね。

## 人びとの暮らしとユニセフの支援

**Q** ソマリアではどのような農業がおこなわれているのですか？

**A** ソマリアの気候は北部と南部で大きく違います。北部には遊牧民族が多く住んでいます。南部には大きな川が2本流れています。その川にはさまれた肥沃な土地では、バナナやソルダム（穀物の一種）などが育てられています。昔はお米もとれました。メイズ（とうもろこし）が食糧支援で届けられたりしますが、ソマリアの人にはあまり好きではないらしいです。遊牧民でも半牧半農という人もいますし、場所によっていろいろな暮らし方をしています。

# ソマリアって国、知ってる？

「ソマリア」と聞いて、どこが国かすぐにわかりますか？アフリカの東、アフリカ大陸の角のようになっているところにあるソマリアは、長い内戦と干ばつや洪水などの自然災害のために、人びとの生活はずたずたになりました。でも、ソマリアのことを知っている人は少なく、国際社会もあまり関心を持っているとはいえないかもしれません。そのソマリアの話をしてくれたのは、ソマリア・ボサソの町にあるユニセフ事務所長の中井裕真さん。中井さんによると、ソマリアの状況は「国全体が難民キャンプ」のような感じなのだそうです。



つくり、先生をよんできて、学校を開いています。そんな親に「学校をつくったので、教材や備品を支援してくれないか？」という話がきて支援がはじまることがあります。そういう場合、ユニセフの支援と現地の要望は合っていますよね。

**Q** 戦争の中で生きている子どもたち、心の負担が大きいと思うのですが、どのようにサポートしているのですか？

**A** ユニセフは心に傷を負った子どもたちへのサポートをしていて、それなりの経験もつんでいます。しかし、残念ながらソマリアではまだそのような支援活動はできていません。

たとえば、コソボの難民キャンプの場合、対象となる子どもがたたまっていて、集中的に支援ができますが、ソマリアは日本の約1.8倍の面積に日本の人口の20分の1（600～700万人）の人が住み、子どもたちも散らばっています。内戦が続き、子どもたちがどんどん亡くなっているような地域では、薬や食糧などの支援が先、教育は後、と思われるがちです。でも、今、私たちはこういうところだからこそ教育が必要だと主張して、小学校教育に力を入れています。教育は発展性があります。学校で学ぶことが生きのびるために必要な知識を得ることにつながったり、小学校が「普通の」生活を子どもたちに提供する場になったりします。

それから、まだ小さい規模ですが、元子どもの兵士の社会復帰のための支援を始めています。首都モガディシで、120人に受け入れ予定のところに600～700人の応募がありました。そこでは職業訓練などがおこなわれています。

**Q** 女の子は差別されている？

**Q** 男の子より女の子の就学率が低いのは、「女の子に教育はまだ」という考え方の人が多いということですか？

**A** そういう部分もなくはないと思います。ただ、男の子も女の子も小学校に通っている子どもは圧倒的に少ないのです。男の子であれ女の子であれ、小学校に行っても意味がない、家庭のらくだを追わせたり、漁の手伝いをさせたり、家の手伝いや弟や妹の世話をさせたりする方がいいと考えられているようです。

高学年になると、女の子の退学率が高くなります。それには、学校が女の子の通える環境になっていないという理由もあります。ソマリアでは、女の子のトイレは入っていく姿が見えないように壁をつくっておかないといけません。教室も男の子と女の子が別のことが多いです。そのようなトイレや教室がある小学校が少ないのです。

**Q** 女性は、やっぱり差別されているのですか？

**A** それは見方によると思います。水くみや家事、子どもの世話など重労働を担っているのは確かに女性です。でも、日本や欧米の女性に対する考え方をそのまま持ちこんでも、すぐに根づくと





©UNICEF/HQ00-04781/Chalasani

は思えません。たとえば 安全な水が手に入る水場をつくるとしましょう。その管理委員会を住民でつくってもらい、そこに女性を必ず入れてもらおうとしてもあまり意味はありません。なぜなら、そうした場で女性が発言する習慣はないのです。

聞いた話ですが、大切なことを決める長老会議に出てくる男性は、家庭で妻に「こんなことを話してきなさい」と言われてきているそうです。ユニセフは、大切なことを決めるときには女性の意見が反映されるように、と考えていますが、(委員会や会議に女性が出ていなくても)そういう仕組みがあるにはあるのだよと教えていました。

それから、教科書に女の子が会議の議長をやっている絵を入れるなどの試みもはじまっています。そんな教科書を見て、だんだんみんなの意識が変わっていく効果を期待しています。

### 中井さんから見た日本、国際協力



**Q** 中井さんから見た日本とソマリアについて教えてください

**A** 日本はいい国ですよ。でも、実は、こういう仕事を始めた理由のひとつは日本を出たかったからなんです。外国に出てからも最初は日本人スタッフとして見られるのがいやでした。でも、今は日本人と見られることに誇りを感じています。というのも、世界のどこに行っても、日本に対して敬意を持たれていることを感じるからなんです。有名なのは電気製品や車ですが、よく聞くと、そういうものを生み出した日本人や日本の社会に対する尊敬があることがわかるんです。

ソマリアについては...、ソマリアに限りませんが「世界は不公平だな」とは思いますね。夜の地球を撮影した衛星写真を見たことがありますか? 日本やアメリカは電気でピカピカ光っているのに、ソマリアも、私が働いたことのあるミャンマーもイラクも真っ暗ですもんね。

**Q** 最近、国際協力が何かされいごどのように言われているのですが、中井さんは国際協力をどう考えますか?

**A** 私も、かっこいいかな、とあこがれて入った世界ですが、実際はきれいなところではすまないこともたくさんあります。大学で先生が福祉について言ったことですが、福祉には「熱き心と冷たき頭」が必要だ、理想は大事だが、理想を具体的なサービスに置きかえていくときに、現実を見すえてサービスをつくりあげられるプロフェッショナルになってほしい、と。これは国際協力の仕事にも当てはまると思います。

**Q** 現場において、実際に人が死んでいたりするのを見て、中井さんは人を助けることや命をどのように思いますか?

**A** 人が目前で亡くなるのはつらいです。でも、とらわれすぎでは先へ進めなくなります。ソマリアでは毎年コレラが流行し、今年の4月にも300人くらいが私の担当地域で亡くなりました。病院に行くといどい状況で、言葉もなかったのですが、そこで止まってしまうわけにはいきません。こういう時こそ「熱き心と冷たき頭」です。現状を受け止めて、「じゃあどうする」と解決の道を探します。それで給料をもらっているわけですし、この給料はみんながユニセフに募金してくださった中から出していることを忘れてはいけないことです。

それから、あまり「助ける」とは考えません。募金をしてくださるみんなと現地の「橋渡し」をしている感じがします。ユニセフは「方法を提供」します。魚を釣ってあげるんじゃなくて、釣り方を教える、といったふうに。現地の人は自分達で暮らしに合うように工夫します。ときには、私たちが思いもつかないようなもっとよい方法を生み出していることもあります。私たちはそれを教わって、別の村でそれを広めたりもします。結果的に「助けている」部分もあるかもしれません、そう意識したことはないです。

### メッセージ

**Q** 日本の子どもたちに何を望みますか?

**A** 日本はもうダメなんじゃないか、なんて言われていますが、半年くらい日本を留守にして帰ってくると、どんどん新しいものが出て変わっています。世界的に見たら、日本みたいな国は限られています。日本の支援やパートナーシップを求めている国にこたえられるだけの体力は持っていないといけないと思います。それだけの期待があるということは自覚してほしいと思います。

**Q** 開発途上国での支援活動をめざしている人にアドバイスを

**A** よく考えたほうがいいと思いますよ。日本で生活していれば当たり前のことが開発途上国では当たり前ではありません。このような仕事にすべての人か向いているわけではありません。また、国連に入りたい人はたくさんいるわけですが、「国連に入ること」を目的にしないでほしいと思います。国連は大きな器であってその中にいろいろな活動分野があります。まず自分がどんな分野で何がしたいのかをはっきりさせた後で、それを実現する手段として国連機関やNGOをめざしてください。



**Q** 高校で栄養の勉強をしているので、将来は理系の大

**A** 学に行きたいのですが、それでもユニセフで働けますか?

**A** もちろん。栄養不良が深刻な国はたくさんあり、栄養はユニセフの活動でも重要な分野です。理系の専門性が求められる活動分野はたくさんありますよ。



©UNICEF/HQ00-00500/Chalasani

### インタビューを終えて...

#### ネットワーカー記者 の感想

私は将来、開発途上国での支援活動に参加したいと思っています。それが、今回の記者を希望した一番の動機でした。今回のインタビューを通して自分の意識が大きく変わりました。中井さんのお話を聞いていて、一番ショックだったのは自分の今までで考えていたことと現実の違いでした。私は今まで、支援活動に対して理想やあこがればかりで、カッコイイ部分しか知らなかったのだということに気づかされました。中井さんのお話の中で、「熱き心と冷たい頭」という話がありました。それを自分のことで考えてみると、私には「冷たい頭」がないと思いました。いつも感情で動いてしまい冷静な判断ができなくなってしまった

まい。中井さんのように、時には冷たい頭で通じていけるような強い人間になりたいと思いました。これから、自分の目標を実現させていく上で大きな課題が見つかった気がします。時間をかけて少しづつ自分を変えていくと同時に、夢を追いかける熱いだけはずっと持ちづけたいと思いました。

西子 紗世 17歳

すごくいい体験をしたな、と思っています。ずっと夢のような、遠い存在にあった「ユニセフ」がなんだか身边に感じられるようになりました。また、今回インタビューをさせていただいた中井さんもすごく気さくな方で、インタビューがとても楽しかったです。

中井さんの本音トークもいくつか飛び出したり、本当にあつというまの2時間でした。

それから、一緒にインタビューをしたみなさんも、とても楽しめたばかりでずっと笑っていたのが気になりました。

ます。「国際協力」ってほんと一体何

だらう。家に帰ってからも私はそのことで頭がいっぱいでした。今、自分ができること。自分にしかできないこと。って、何があるんだろう。日本だけじゃなく、世界のことについても考えるようになりました。

最後に中井さんをはじめ、関係者の皆さん、すばらしい体験をありがとうございました。

山瀬 麻里絵 15歳

今、とのできないようなお話を聞くことができてとてもよい経験になりました。インタビュー前までの私は日本からの目線のみで開発途上国を見ていましたけれど、お話を通して、現地の目線からの事実がどんどん見えてきたし、その新鮮さと大きさを強く感じました。私は将来的に国際協力の仕事について、南北問題の解決の助けになりたいと考えています。これ

から、たくさんのことを学んで、広い視野で問題を解決していく力をつけたいです。その時に、今回

感じたことや学んだことを大切に、そして生かしていきたいと思っています。また、今回全国各地から集まつたネットワーカー達と意見を交換しあうことで私自身、いい刺激を受けました。

「世界の子ども達のためと一緒に立ち上がらう!」と強い意志を持つ仲間が

いることが分かり、これからもそんな仲間と一緒に活動していくんだ、と心に誓いました。

田中 和子 17歳

今、インタビューを通して私はあらためて『世界が抱えている問題』を私たちのこれから課題だ

と思いました。「ソマリア」という国はあまり日本の私たちには知られていない国だけど、紛争問題・男女差別などまだまだ多くの問題を抱えている国。でも、そういうソマリアの中で起こっている問題は「ソマリアの問題」ではなく、地球市民である私たちのこれからの課題だということを中井さんのインタビューを通じて心の中で感じました。中井さんはソマリアのよう

国でユニセフが活動するということは日本の人たちとの橋渡しをしているということだとおっしゃっていました。私も早く自分の夢である日本の人たちの橋渡しができる世界の貧しい国の子ども達の力になれるような仕事につきたいと思います。今回、中井さんはもちろん、同じユニセフ子どもネットワーカーのみんなとも自分たちが、今、思っていることをたくさん話し合えたので私もにとってプラスになりました。これから、私たち地球の子どもみんなで「これから私たちの課題」をみつけていなければいけないです。

中佐 友衣 15歳

今、中井さんにインタビューさせていたいたことに感謝します。インタビューしてて印象に残ったのは、ソマリアなどの現地で働くには、「熱き心と冷たき頭」が必要だ、という言葉です。実際、中井さんは現地のようすや仕事の内容などをドライに話してて少し驚きましたが、それが現実なんだとか改めて認識させられました。

また、ソマリアの問題を考えると、例えば女性器切除の問題にしても、ソマリアの紛争にしても、ひとつの方針から判断するのは危険だと思いました。良い悪いの問題でないことが多いと思うし、それぞの立場があり、そこに歴史やいろいろな欲望が絡まりあっていることが多くあります。だからこういった問題は解決することが難しいのだと思います。だからよりいそ教教育が必要だと思いました。

漆原 直美 17歳

左から 西子さん、田中さん、中井さん  
漆原さん、山瀬さん、中佐さん



# REPORT & INFORMATION

## お知らせ Information

募集

### 「子どもの人身売買」キャンペーン 子どもによる活動を企画してみませんか？

計画に参加してくれる“子ども活動プランナー”と活動についての意見を大募集！

来年から日本ユニセフ協会では、子どもの人身売買をなくすための活動をすすめていくことになりました。まずは、来年2月にイベントを開く予定です。

キャンペーンにあたって、ぜひ子どもたちこの問題に関わってほしいと考えています。この問題に关心があり、もっと知りたい、もっと知らせたい、子どもの立場からこの問題の解決に関わってみたいと考えているネットワーカーに、子どもによる活動を企画してもらえたらしいなと思っているのです。（人身売買については、2～3ページの記事を読んでみてください）

そこで、この活動を企画するメンバーを“子ども活動プランナー”として最大10人募集します。ふだんは主に電子メールで意見交換したり計画をつくったりして、イベントの時などに集まって、考えた計画を実行してもらおうと考えています。活動期間は、来年の夏休みまでを一区切りとします。

どしどし  
応募して  
ください

条件：できるだけ電子メールでのやりとりができる人。

この問題に対して積極的な活動ができる人。

応募の方法：次のことを書いて、電子メールで送ってください。

(jcuinfo@unicef.or.jp)

- 1) ネットワーカー番号、2) なまえ、3) 学年(年齢)、4) 住所・電話などの連絡先
- 5) このキャンペーンでどんなことをしたいか

しめきり：12月25日(水)



©日本ユニセフ協会/Nozawa

ユニセフ  
募金活動

### ハンド・イン・ハンド実施中

毎年12月はハンド・イン・ハンド（手に手をとってという意味）月間です。毎年、日本全国でボランティアが参加する募金活動がおこなわれています。今年のテーマ「命を守る一滴」予防接種を世界の子どもに」を合言葉に、街角や学校などで募金を呼びかけます。実際に参加したい人は、近くで活動している団体をさがして一緒に参加したり、学校などで仲間をつのって参加申し込みをしたりすることもできます。（申し込みはお早めに）

12月23日（祝）の午後には、東京の恵比寿ガーデンプレイスで中央大会が開かれます。日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャンさんや、スポーツ選手などたくさんの有名人も協力してくれる予定です。



昨年の中央大会には、アグネス・チャン日本ユニセフ協会大使、元横綱の花田勝さん、曙親方らが参加しました©日本ユニセフ協会/Nozawa

#### 新しい資料のご紹介



##### みんなに伝えたいこの想い

##### ～第2回 子どもの商業的搾取に反対する 世界会議 子ども＆若者プログラム～ 20分

ユニセフ子どもネットニュースでも何度かとりあげていますが、昨年12月に横浜で開かれたこの世界会議で、子どもや若者たちがどのように活動したかをえがくドキュメンタリービデオです。



©日本ユニセフ協会/Nozawa



##### 世界子供白書2002 リーダーシップ 10分

国連子ども特別総会が開かれた今年の世界子供白書は、世界の子どもたちが健康に幸せに暮らせる世界をつくるために、政府やさまざまなレベルのリーダーシップを求めました。国連子ども特別総会に向けて世界各地でくりひろげられた活動のようなどを報告しています。



\*ビデオとCD-ROMを貯めています。借りたい人はユニセフ子どもネット事務局まで申し込んでください。（返却のときの郵送料だけ負担してください）



##### ユニセフと世界の子どもたち

世界162の国と地域で活動するユニセフの活動や世界の子どもたちのようすを、映像と説明で見ることができます。（ビデオ「ユニセフと地球のともだち」をベースにしています）

**お問い合わせ・もうしこみは**  
**ユニセフ子どもネット事務局**  
(日本ユニセフ協会 広報室内)  
住所: 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12  
電話: 03-5789-2016  
ファックス: 03-5789-2036  
電子メール: jcuinfo@unicef.or.jp

**お問い合わせ・もうしこみは**  
**ユニセフ子どもネット事務局**  
(日本ユニセフ協会 広報室内)  
住所: 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12  
電話: 03-5789-2016  
ファックス: 03-5789-2036  
電子メール: jcuinfo@unicef.or.jp

**お問い合わせ・もうしこみは**  
**ユニセフ子どもネット事務局**  
(日本ユニセフ協会 広報室内)  
住所: 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12  
電話: 03-5789-2016  
ファックス: 03-5789-2036  
電子メール: jcuinfo@unicef.or.jp

**お問い合わせ・もうしこみは**  
**ユニセフ子どもネット事務局**  
(日本ユニセフ協会 広報室内)  
住所: 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12  
電話: 03-5789-2016  
ファックス: 03-5789-2036  
電子メール: jcuinfo@unicef.or.jp

**お問い合わせ・もうしこみは**  
**ユニセフ子どもネット事務局**  
(日本ユニセフ協会 広報室内)  
住所: 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12  
電話: 03-5789-2016  
ファックス: 03-5789-2036  
電子メール: jcuinfo@unicef.or.jp

**お問い合わせ・もうしこみは**  
**ユニセフ子どもネット事務局**  
(日本ユニセフ協会 広報室内)  
住所: 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12  
電話: 03-5789-2016  
ファックス: 03-5789-2036  
電子メール: jcuinfo@unicef.or.jp

**お問い合わせ・もうしこみは**  
**ユニセフ子どもネット事務局**  
(日本ユニセフ協会 広報室内)  
住所: 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12  
電話: 03-5789-2016  
ファックス: 03-5789-2036  
電子メール: jcuinfo@unicef.or.jp

**お問い合わせ・もうしこみは**  
**ユニセフ子どもネット事務局**  
(日本ユニセフ協会 広報室内)  
住所: 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12  
電話: 03-5789-2016  
ファックス: 03-5789-2036  
電子メール: jcuinfo@unicef.or.jp

こんなことを  
やりました！日時: 11月3日(祝) 10:30～16:00  
会場: 生活共同組合コープこうべ 生活文化センター5階

## 午前

## 1. 自己紹介

## 2. ユニセフとは？！

「世界子供白書2001」と去年の横浜会議のビデオを見て、世界の子どもの現状(これからの課題など)を学びました。

## 3. これからの活動

これからやっていきたいことを話しました。右のようなアイディアが出ました。

全国の各地域の学習会が分担して1ヶ国ずつ、いろいろ切り口から調べる。全部が集まれば世界中のことが分かるようになるっていう壮大な計画です。  
ハンド・イン・ハンドに参加してみる。  
今までに出た宣言文や条約を自分たちの言葉になおす。  
公式文書のむずかしい言葉をわかりやすく、できれば関西弁に直そう！  
各学校の文化祭でユニセフに関する展示をする。  
来年からのキャンペーン「子どもの人身売買」に関わる。  
関西で開かれる、「世界水フォーラム(2003)」に関わる。  
エイズの世界会議に関わる。

## 午後

## 子どもの人身売買キャンペーンについて

春から計画されている署名活動などに参加しよう

・署名は、ちゃんと内容を知ってからじゃないと募金のように気軽ににはできない。

⇒ 街頭では無理 ⇒ 個人で各学校などでやる ⇒ まず私たちが知らなきや何も

できない！ ⇒ 人身売買について調べよう ⇒ どうやって調べる？？

・地域を東南アジアに限定する。

・署名活動が始まる頃に、一般の人に知つてもらえるようにワークショップを開くことを目標にする。⇒ 参加してくれた人が身の回りで署名を集めてくれるよう…

・毎月一回の割合で集まって、調べてきたことを共有する。  
人身売買について調べていると必ず子どもの商業的搾取の問題にもぶつかるので、そこからエイズのことにも発展させられるはず…

こんな感じで少人数だけど、楽しく有意義な話し合いができたと思います。人数を増やすことで次からの目標なので、ハンド・イン・ハンドでは友だちをいっぱい誘つて、人身売買の学習会では18歳以上の元ネットワーカーや、横浜会議(と川崎セミナー)に参加していた大学生も巻き込もうかなあと考えています。

報告者: 岩島 史(16歳)

## Letter

アメリカ在住のユニセフ子どもネットワーカー

田代準之介君からのおたより

お久しぶりです。今年の6月にアメリカ・カリ

フォルニア州に引っ越しした、ユニセフ子どもネットワーカーの田代準之介(13歳)です。

ぼくと兄の竜太郎(15歳)は、現在、近所の

United Nations Store(国連ギフトショップ)で、週

一度、ボランティアをしています。ボランティア

の内容はさまざまで、接客、レジ打ち、値札はり

から、そうじ、商品の注文など、何でもやりま

す。そこはサン・フランシスコのサン・ノゼ地域で

唯一の国連ギフトショップで、国連国際委員会支

部の事務所としての役割もかねています。店は自

宅から車で15分くらいの町の中心部(ダウンタ

ウン)にあります。店内はかなりせまく、しかも

商品が販売せましと並んでいるので余計に狭く感じ

られます。最近、クリスマス商品の入れ替えなど

がおこなわれてあり、事務に使っている机さえ商

品のディスプレイに、使われています。話による

と、クリスマスの時は息をつくひま

がないほど忙しいらしく、12月

月にはいる前に、準備をしておかないと

いけないそうです。最近はあまりお客さんが多い

くないので、時にはお客様と話をしても個人的つながりを作ったりすることもあり、とても

楽しいです！

10月31日はハロウィンで、ぼくはユニセフが実

施している"Trick-or-Treat for UNICEF"という募金

活動をしました。通常のハロウィンは、子どもた

ちが"Trick or Treat(いたずらされたい)"?それとも

おかしをくれる?"と言つて近所の家庭を訪問し、

おかしをねだるのですが、この募金活動の場合は

"Trick-or-Treat for UNICEF, please(いたずらされたい)"?それともユニセフ募金を"と言つて、募金をしてもら

うものです。ぼくは20分くらい歩きまわって、17ドリ(およそ2000円)くらい集めました。

2002年11月11日 田代準之介くんのメールより抜粋

